

平成 26 年度 事業報告 榊原記念クリニック

(東京都新宿区西新宿 2-4-1、新宿 NS ビル 4 階、延 554.11 平方メートル 管理室 延 185.30 平方メートル)

1982 年 10 月に新宿 NS ビル 4 階に開設された榊原記念クリニックは、循環器疾患の専門クリニックとして、虚血性心臓病、高血圧、不整脈、弁膜症、心筋症、先天性心疾患、血管疾患など 14 万人を超える受療者の診療を担当し、高度専門医療の実践を通して社会に貢献する榊原記念病院の外来部門としての役割を果たしてきました。病院の府中移転後も、光ファイバーネットワークによる病院情報システムを活用して緊密な連携体制をとりながら、多様化する医療のニーズに応え、地域医療連携も含めて専門医療の提供に努めています。

また公益財団法人付属臨床研究施設として、クリニック独自あるいは記念病院との協働で臨床研究を実践するとともに、全ての医療職（専門医師、看護師、薬剤師、医療技術職、医療事務職）を対象に、先進的な教育研修と育成に努めてきました。

本年度も引き続き診療部門の機能を強化するとともに、臨床研究と教育研修について以下の項目を継続して実践しました。

I. 新宿外来診療部門としての機能

2015 年 3 月末現在、常勤医師 7 名と顧問医師、非常勤医師計 28 名および記念病院医師、看護師 6 名、薬剤師 6 名、臨床検査技師 24 名、診療放射線技師 2 名、管理栄養士 1 名、事務職員 44 名の約 120 名体制で、月平均約 5,800 名の患者さんの専門外来診療にあたりました。

2014 年度（2014 年 4 月～2015 年 3 月）の診療実績は、初診患者数 2,362 名（月平均 197 名）、再診患者数 64,159 名（月平均 5,347 名）、延べ患者数は 66,521 名（前年度比 2,133 名の減少、月平均 5,543 名、1 日平均 222 名）でした。主な検査の実施状況は、心エコー検査 9,952 件（月平均 829 件）、ホルター心電図 3,730 件（月平均 311 件）、ホルター解析受託 3,374 件（月平均 281 件）、心臓ペースメーカー管理 1,597 件（月平均 133 件）トレッドミル・CPX551 件（月平均 46 件）、放射線撮影 20,337 件（月平均 1,695 件）でした。

本年度も記念病院との緊密な連携のもとに、都区内はもとよりさらに広域の受診者を受け入れ、入院の窓口および退院後の受け皿としての機能を果たしました。記念病院の入院患者 7,410 名のうち救急入院も含めて計 1,423 名（19%）が当クリニック経由であり、そのうち 157 名は当院救急車もしくは東京消防庁の救急車などによるクリニックからの即日入院であり、平均 2 日に 1 件の心血管系緊急患者を搬送しました。記念病院と当クリニックは距離的には離れていますが、独自の病院情報システムにより検査画像も含めたすべての診療情報をリアルタイムに共有し、また病院に新規導入した救急車には 12 誘導心電図、心エコーの動画像をリアルタイムに伝送できる機器が搭載されており、新宿と府中間をより安全に救急搬送できる体制が整備されております。年間退院患者 7,364 名のうち 628 名（9%）が退院後に当クリニックを受診しております。なお当クリニックの初診患者 2,362 名のうち 369 名（16%）は記念病院からの紹介によるものでした。また記念病院を初診あるいは退院した後も、専門医療の継続を要する通院患者は年々増加しています。その受け皿として、引き続き以下の専門性の高い外来機能を充実させその対応に努めました。今後もさらに専門外来を新設し、ホームページの刷新も併せて、全国レベルで外から見える榊原記念病院の入り口となれるようにしたいと考えています。

遠隔モニタリングシステム

重症不整脈あるいは心不全に対してペースメーカーや埋め込み型除細動器（ICD）、心臓再同期療法などの埋め込み機器治療を受け、退院後も継続して外来管理が必要な患者数は増加しております。当クリニックでは 2010 年 8 月に遠隔医療システムを導入し、これらの患者を積極的に受け入れてきました。本年度もこのシステムによる診療患者数はクリニックとして全国で最上位を占め、2015 年 3 月現在の登録患者数は 767 名（前年比 139 名の増加）となりました。本システムの運用には医師や看護師だけでなく、臨床検査技師、医療事務職を含めた医療チーム全体の質の高い協働が不可欠

であり、また受療者への利便性は高く当財団の理念にも沿う先駆的な医療システムであり、今後も遠方在住者を中心にさらに充実させる予定です。

末梢血管疾患外来

人口の超高齢化に伴い、末梢動脈疾患（PAD）、下肢深部静脈血栓症（DVT）などの末梢血管疾患を合併する患者は益々増加しています。その対策として、当クリニックでも2009年4月に末梢血管疾患外来を開設し、末梢血管内科専門医および専門外科医併せて計3名の診療体制とっております。さらに末梢血管エコー専門検査技師の養成を進め、非侵襲的検査室を充実させました。本年度の末梢血管外来患者数は702名でした。記念病院における下肢静脈瘤レーザー治療適応患者数の急増に対応して、当クリニックで2013年9月より外来レーザー治療を開始しました。2015年3月までの施術件数は26例で、施術を希望する待機者は多く、今後の増加が見込まれます。

外科手術と比較して低侵襲であり、適応となる患者数はさらに増加していくと考えられます。安全に実施できる体制を確保しつつ、慎重にその拡充に努めます。

睡眠時無呼吸外来

心血管疾患の発症や増悪との関連が注目されている睡眠時無呼吸症候群の患者は600名と当クリニックでも増加しており、簡易PSG検査の実施数は36名でした。簡易検査だけでなく入院精査が必要な例に対しても、記念病院と緊密に連携して対応し、心血管疾患との関連についての研究を進めます。

記念病院への救急搬送体制

新宿の当クリニックを受診した心血管救急患者を、距離的に離れている府中市の記念病院まで迅速かつ安全に搬送することは極めて重要な課題です。独自の病院情報システムによる全診療情報のリアルタイムな共有、専用救急車と搬送人員体制の維持などに加えて、移動中に12誘導心電図や生命徴候のみならずCT・MRIの静止画や心エコーの動画も伝送できる新型高規格救急車（榊原ドクターカー）を病院に配備しております。本年度も引き続きこれらの特徴を最大限に活用して、救急搬送の迅速性・安全性の向上に努めました。

受療者の教育啓蒙

①生活習慣病の外来管理

榊原診療健康調査（SHIP）のデータベースでも、心血管疾患に加えて高血圧、脂質異常症、糖尿病など複数の生活習慣病を合併する患者は年々増加しております。生活習慣病の外来管理体制の充実が心血管疾患の一次・二次予防にとっても重要な取り組みであり、本年度も当クリニックで受診患者対象の生活習慣病改善教室を計8回開催し、独自の方法を取り入れた啓蒙、指導体制をさらに充実しました。

②多職種協働による慢性心不全患者の外来管理

これまでも記念病院と連携して、主に退院後の心不全患者を対象として独自の外来管理プログラムを実践してきました。本年度も引き続き、説明用ツールや生活管理日誌などを活用し、医師、看護師、管理栄養士、薬剤師など多職種が積極的に関わり、実効性のある生活および服薬指導を推進することにより、再発、再入院予防に努めました。

③患者家族向け心肺蘇生法講習会の継続

循環器専門の医療機関である当クリニックでは、これまでも心肺蘇生法の普及に指導的役割を果たしてきました。主に心疾患患者の家族を対象として、自動体外式除細動器（AED）を用いた心肺蘇生法の講習会を毎年実施しておりますが、本年度も多くのスタッフの協働で計3回開催しました。

地域医療連携のための活動

当クリニックの医師が中心となり、循環器領域や生活習慣病に関する医療情報の発信と連携を深めるための活動として、新宿副都心および周辺の医療機関を対象とした学術セミナーを企画し継続しております。本年度も近隣の医師および全ての医療職を対象としたサーキュレーションセミナーを計 11 回開催し多数の参加を得ました。本年度の当クリニック初診患者 2,362 名のうち、周辺医療機関からの紹介患者数は 975 名で全体の 41%を占めており、循環器専門のクリニックとして地域医療の向上に貢献しております。

また本年度も西新宿地区で大地震等大規模災害発生時の合同避難訓練が実施され、近隣の大学病院や医療機関の職員とともに当クリニックからも医師・看護師・事務職が参加しました。今後この企画に積極的に参画し、大規模災害発生時に備えて地域医療に貢献できる体制の整備に努めます。

II. 医療安全

当院はクリニックではありますが、医療安全委員会や感染対策委員会などを含め計 16 の常設委員会を設置し、クリニック単独または記念病院との合同で定期的を開催しております。医療事故防止対策委員会と感染対策委員会では毎年クリニックの全職員を対象とした講演会を企画し、クリニック全体として医療の質と安全に心がけてきました。本年度も講演会を開催し、休職者や当番勤務職員以外は原則全員が参加し、毎回の出席率は 80%に達しています。また例年通り事務職も含めた全新人スタッフを対象として、自動体外式除細動器（AED）を用いた心肺蘇生法講習会を計 2 回実施しました。